

人口減少の加速化と 多文化共生

2026年8月11日
柏市 家庭倫理の会

1

はじめに

・日本の人口減少が加速している。明治(1868年)に3300万人、昭和(1945年)7200万人、令和2008年に12800万人と急増後、2070年には8700万人と予測。人口減少が加速期に突入。今後10年間で1000万人の日本人が消える。地方消滅の危機。

・一方外国人の人口流入は2024年で36万人。約40万人が続くと2040年には約1000万人という外国人移住者が流入する歴史上最大の転換を迎える。未曾有の変化に対しての準備はあるのか。過疎化する自治体は、この流れをどう取り込むか。

・常磐線沿線、松戸から柏、取手から土浦にかけて、日本語学校が乱立し、朝夕、町中、市役所の窓口にはアジアからの生徒達が急増している。そこに住む住民として私たちに出来ることは何か、身近なテーマとして共に考えたい。

2

第1部

少子高齢化社会の現状

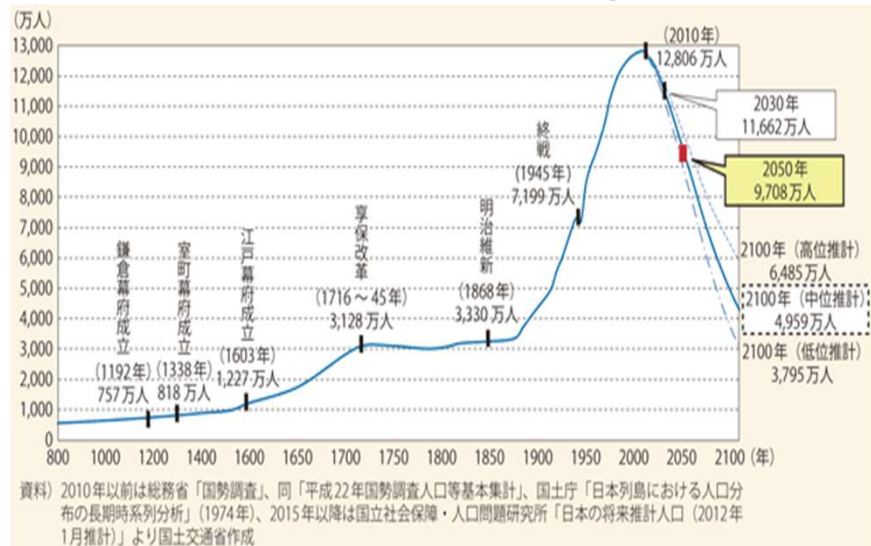
3

1. 閉塞感が覆っている

- ・戦後の、明治期以来追求してきた「経済成長」や「物質的な富の拡大という目標が機能しなくなってきた。そして、それに代わる新たな目標や価値がなお見いだせないでいる。これから日本社会が実現していくべき社会の姿や未来像あるいはそこでの価値を見つけられないまま漂流を続けてきた。アジアの小国日本が欧州発の思想に飲み込まれ、突貫工事を続けてきたが、蓄積されてきた課題が露出し、失速していった。

4

日本の人口推移①



5

2. 昭和的な社会や行動

- ・後発のキャッチアップ型の国家に共通する現象として、日本もジャパン・アズ・ナンバーワンと称賛された高度成長の成功体験を味わった。(2025年は昭和100年)
- ・デミングとドラッカーの経営哲学の教えによって、システム、バラツキなど品質管理を経営者が学び、職場ではQCサークル活動が広がり、日本の輸出の評価が急速に広がった。
- ・アメリカのような個人主義の社会ではなく、会社や組織を家族として捉え、徒に競争するのではなく、お互いに協調して進めようとする日本人の姿勢に彼らは共感した。

6

3. 30年間の比較(一人当たりGDPドル)

	1990年	2000年	2010年	2020年	00対20
アメリカ	24037	36300	48310	63356	1.74倍
イギリス	19109	28300	39603	40230	1.42
ドイツ	22321	23827	41763	46655	1.96
スウェーデン	12869	23702	46569	59795	2.52
日本	25329	39181	44674	40089	1.02
韓国	6423	12315	22087	31638	2.56
台湾	8205	14908	19262	29358	1.96
中国	342	958	4523	10511	10.97
インドネシア	732	821	3178	3922	4.77
タイ	1602	2004	5397	7002	3.49
インド	378	449	1423	1930	4.29
ベトナム	121	498	1684	3586	7.20

7

3. その後 我々が捨ててしまったもの

何か大切なものが失われてしまったのではないか。
 経営に対する基本的な心構えである。企業は資本と労働による一つのかたちである。この協働が上手くいくようにする活動を経営とよぶ。
 よい経営をするための方法を研究する学問が経営学だ。日本はアメリカや欧州から品質管理をはじめマーケティングやマネジメントを学んだ。
 企業の目的は利益の最大化ではない。企業の目的は永続することだ。ドラッカーは利潤動機なるものは的外れだけではなく害を与えるという。
 多様な集団の期待に応えるためには、多様な目的を置かねばならない。企業で働く人びとの内面から人々を律し、動かす心構えが必要である。これを経営の精神という。最近では日本の産業社会で経営を支える経営精神にゆがみが生じてしまったように感じる。勤勉や愚直さが弱くなってしまった。競争心も弱くなった。志や使命感の喪失である。そして営利精神ばかりが強くなってしまった。

(加護野忠男)

8

4. 需要の飽和、成熟化から次へ

- ・モノを作ってもかつてのように簡単には売れない
- ・人間の経済活動や資源消費が地球環境の有限性にぶつかっている
- ・経済第一から社会・環境との共生など多元的な価値にシフトした方がかえって経済にとってもプラスになる。
- ・幸福＝ウェル・ビーイングなど主観的指標をどのように考えるか。日本はようやくこのテーマを考える時期を迎える時期に来たのか。
- ・地球倫理

9

5. 生産人口と高齢者

	15才から64才	65才以上
1990年	8590万人	1489万人
2000年	8622	2201
2015年	7935	3379
20年	7509	3603
25年	7170	3677
30年	6875	3716
35年	6494	3782

10

6. 超高齢社会となった原因と現状

- | | |
|--------------|------------------|
| ・未婚・晩婚化 | 1. 社会保障費の増額 |
| 経済的余裕のなさ | 年金、医療、介護、子育て費用 |
| 独身の気楽さ、自由さ | 2. 労働力人口の減少 |
| ・出生率の低下による若者 | 成長率減速、税収、社会保障費 |
| 人口の減少と少子化の進行 | 3. 現役世代の負担の増大 |
| ・女性の高学歴化と | 4. 家族の負担増 |
| 社会進出 | 介護施設満室と入所費用増 |
| ・医療技術の進歩 | 5. 高齢者のQOL低下と孤立化 |

11

7. 滅びる民族 A.トインビー

- ・文明が挫折する根本の原因は「不和」と「分裂」である。
- ・トランプのアメリカやロシア、欧州、イスラエルとアラブ紛争の現実を見るにつけ、我々日本の使命は何か。明治以降の脱アジアの道を反省し、これら関係諸国が懸命にめざす成長発展への協力と共存という本来の姿、将来ありたい姿をデザインした上で、超高齢、多死社会が抱える現実の問題解決に取り組むことで子どもと孫の世代が喜んでくれる社会の実現に立ち戻るまたなき良き時期をむかえている。
- ・滅びる民族の3つの原則
 1. 理想を失った民族
 2. すべての価値を物やお金に置き換え、心の価値を見失った民族
 3. 自国の歴史を忘れた民族
- ・トインビーが予言する日本没落の可能性
＝文明内部から起こる慢心が原因

12

第2部

多文化共生=外国人材と共に 生活していける社会づくり

13

8. 高齢社会が求める課題

1. 若い世代の就業機会と所得の確保支援
2. 人的資本とスキル・キャリア学習とSDGs活動
3. アジアからの就業者の採用と共生社会への貢献
4. シニアの健康と福祉・介護、バリアフリーの生活環境
5. 高齢者むけ研究と先進技術、ロボット、AI
6. 高齢者むけ市場規模ビジネスとマーケティング
7. 世界の老人人口上位国の研究
韓国、台湾、イタリア、ポルトガル、フィンランド、ギリシャ、ドイツ
8. 地域の自治体の個性的な産業、活性化事業への参画
9. 若手・外国人を巻き込んだ将来デザイン(F. D)の展開

14

9. 地方創生(2015年)と今後

主たるテーマ

- ・東京一極集中:女性・若者にとって魅力的な地域づくり
- ・少子化への対応:社会全体で子ども・子育て世帯を応援
- ・地域の生産年齢人口減少への対応:高齢者も安心して働ける
- ・地域資源を活かし、付加価値を高める産業・事業の創出

残されたテーマ

- ・地域における日常生活の持続可能性:デジタル化
- ・都市部と地方との連携機会
- ・大規模災害被害からの復活
- ・悩みを抱える自治体への支援
- ・地方創生の取組を加速化するデジタル活用、ロボット、ドローン
- ・地域・社会課題の解決、住民参加のタウンミーティング

15

10. 多文化共生社会のルーツ:兵庫

兵庫と神戸

1. 歴史的ルーツ:4世紀末からアメノヒコホが但馬に来日、渡来人が鉄器と土木技術を、武器や仏教、文字を。
2. 対朝鮮外交、蘇我氏の日本海交易、和を以て貴しとなす。大陸文化が直接流れ込む表玄関。多様な価値の混合
3. 平清盛の日宋貿易、神戸港。明治の開国後、横浜と。西洋の異人館、居留地、中国人の南京町。
4. 兵庫県地域国際化推進基本方針
阪神・淡路大震災 外国人・日本人県民のコラボ

16

11. 兵庫多文化共生方針

1. 多文化共生の意識作り
2. 多文化共生の人づくり
3. 暮らしやすい生活基盤づくり
 - ・情報提供
 - ・日本及び日本の文化・習慣の学習
 - ・住居、暮らし、保健医療福祉、就業支援、防災、相談
4. 誰でもが参加できる活力ある地域づくり
 - ・外国人県民の地域づくりへの参画
 - ・ビジネス人材、留学生などの受け入れ

17

12. 過疎対策から新たな社会の創造へ

人口減少と高齢化が進み、過疎化が進むエリアはその対策が政策課題。方法論(HOW)が重視され、何故(WHY)と何を(WHAT)が真逆で、本来の自分達の存在目的や価値観の共有があいまい。人口減少は長期的に見ると、あがなうことは出来ない。日本人の減少に対して増加してきたトレンドが外国人居住者の数。ここに注目すると国全体では2040年には約1000万人が見込まれている。兵庫県も昨年で約14万人、将来はもっと増える見込み。ネパール、インドネシア、ミャンマーなど、5年間でアジアからは3倍以上と急増している。この新たな潮流に波乗りして、もっと外国人材が来て住み続けたい、多文化共生の地域づくりを目指すことを進める自治体が増えている。先人たちはこの地域が更に豊かになるように、特徴ある産業政策と住民の学習意欲を高め、豊かに、幸せになれるようにと学問を奨励している地域が多い。今後各地で新たに加わる外国人と、どんな新たな地域共同体をつくるか広がろうとしている。

18

13. 千葉県の外国人

上位10市町村 令7年	上位10国籍
千葉市 42千人	1 中国 63
船橋 25	2 ベトナム 39
松戸 25	3 フィリピン 23
市川 23	4. ネパール 23
柏 14	5. 韓国 15
成田 10	6. スリランカ 13
	7. インドネシア 12
県 247	8. ミャンマー 7
	9. タイ 7
	10.台湾 4

19

13. 外国人材に選ばれる地域づくり

- | | |
|---------------|------------------------|
| 1. 日常生活 | …健康・医療、介護・福祉、感染症 |
| 2. 緊急対策 | …防災マップ、必需品の提供、避難訓練、 |
| 3. 日常生活のルール | …ゴミ出し、買い物、公共交通の利用 |
| 4. ご近所付き合い | …お祭り、自治協議会、地域行事への参加 |
| 5. 住居の相談 | …空き家、保証人、住居・不動産関係者の支援 |
| 6. 雇用の安定化 | …商工会、都市の人材派遣業とのタイアップ |
| 7. 子供の教育 | …教育委員会、小中学校、PTA、周りの声掛け |
| 8. 日本語の習得 | …地元の国際協力協会との交流、やさしい日本語 |
| 9. 地域への愛 | …人々がやさしい、自然が守ってくれる |
| 10. 地域の人々との交流 | …朝の集い、青年の集い、子育て会など |

⇒こんな素晴らしい地域があったのか、仲間にも紹介して連れて来たい

20